

さとにきたら ええやん

監督・撮影:重江良樹 音楽:SHINGO★西成 プロデューサー・構成:大澤一生(「隣人」「フリーダー・カーロの遺品―石内部、織るように」) 編集:辻井深(「隣人」「イラク チグリスに浮かぶ平和」)
音響構成:渡辺丈彦(「ルンタ」「妻の病 レビュー-小体型認知症」) 制作協力:神吉良輔(ふとっちょの木)、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力:ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力:小谷忠典
助成:奈良文化庁文化芸術振興費補助金 企画:ガーラフィルム 宣伝・配給協力:ウッキー・プロダクション 製作・配給:ノンデライコ 2015 | 日本 | 100分 | カラー | 16:9 | 5.1ch | DCP



学内上映 4月26日(水)

① 13:30-15:30

② 17:15-19:15

無料



日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場「こどもの里」
人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリー!

www.sato-eeyan.com

いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



わたしはあなたの味方やで! 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の“取り組み”が、これから歩む私たちに問いかけるものとは――?

映画「**さとにきたらええやん**」学内上映会

日時：2017年 **4月26日(水)**

①13:30 - 15:30 ②17:15 - 19:15

※各回終了後、「子どもの貧困」と向き合う活動について語る時間を設けます（参加自由）。

会場：図書館ホール「**Lib.コモンズ**」

定員：**各回 先着 40名**

**さとにきたら
ええやん**

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一生 編集：辻井潔 音響構成：渡辺丈彦
制作協力：神吉良輔（ふとっちょの木）、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪
特別協力：小谷忠典 助成：委文化庁文化芸術振興費補助金 企画：ガーラフィルム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション
製作・配給：ノンデライコ 2015 日本 100分 カラー / 16 : 9 / 5.1ch / DCP

www.sato-eeyan.com

[fb.com/satoeeyan777](https://www.facebook.com/satoeeyan777) [@sato_eeyann](https://twitter.com/sato_eeyann)

主催：ボランティアセンター 共催：人権センター

【お問い合わせ】ボランティアセンター（3号館1階）

Tel: 075-705-1530 E-mail: volunteer-support@star.kyoto-su.ac.jp